

日本ビジネス新聞

Japan Cleaning Journal

毎月3回(5・15・25日)発行

毛利セミナー

市場縮小覚悟での生き残り フッ素溶剤、宅配の可能性探る

業界関連者が最新の課題を論じ合い、切磋琢磨する「第16回毛利春雄セミナー」が10月6日神戸で開催された。昨年3月は消費増税駆け込み需要で改めて市場の潜在力の凄さを確認したが、増税の反動以降、冴えない売上が続き、今年は再び総需



過去最高、満杯となった毛利セミナー

要4000億円を大幅に割り込む予想だ。そうした危機感と今回の催しの目玉の一つ「宅配」の将来像を確認しようとする全国から110名が参加、16回目で過去最高という盛況になった。

昨年、新JIS対応と新業態「洗濯代行」を取り上げた、自らの立ち位置の確認を迫った毛利講師の今年の提唱は「体質の改善」だ。基調講演でも「団塊の世代の退場は終息に入り、本格的な人口減で下から新たに来る人は少ない。2020年東京オリンピック絡みの最後の活況後、経済は落込み、市場は大幅に縮小する覚悟の中で商売を、生き残りを考えるのはならない。もう「何とかなる」の



基調講演した毛利講師



リネットの安達経営戦略室長(左)と井下社長



デリバリーを語る坂田講師

思考は通用せず、寡占化の進行で恐らく3割程度の生き残りの余地に加わるかどうか。それには過去の業績も振り切る体質改善を成し遂げなければならぬ。ぐずぐずと赤字店を抱える状況は越え、黒字店に絞って生き延びる方策を」と訴えた。当日は将来のドライシはオゾン破壊なし、環境問題対応の次世代フッ素溶剤だと「Ice soon」と「AMOLEA(アマレア)」が紹介され、また「宅配」では業界のパイオニア、坂田知裕(株)トウトウモロウ社長がデリバリーシステムを。そして目下話題のネットクリ

ーニングの主役(リネット)から井下孝之(株)ホワイトプラス社長、安藤達裕経営戦略室長が講演。双方とも業態立ち上げから現在を紹介。ひびきさどともに、「宅配」という業態の可能性を噛み締めたセミナーとなった(詳細は近々号で)。